

3. 技術・環境委員会

令和5年度の技術・環境委員会における主な活動状況は次のとおりである。

3-1 委員会の構成

(1) 技術・環境委員会

委員長	芹沢 徹	(古河電工パワーシステムズ)
委員長代行	飯島 晃一	(古河電工パワーシステムズ)
副委員長	阿辺山 健	(日本エナジーコンポーネンツ)
委員	森島 浩之	(SWCC)
委員	中島 仁	(河村電器産業)
〃	佐藤 大晴	(北日本電線)
〃	松本 祥吾	(住電機器システム)
〃	原田 友哉	(スリーエム ジャパン イノベーション) (望月 俊秀より途中交代)
〃	古賀 龍也	(大電)
〃	市原 謙	(タツタ電線)
〃	白石 侑	(谷川電機製作所)
〃	古長 成翔	(西日本電線)
〃	飛鳥井 哲也	(日本ガイシ)

(2) ワーキンググループ

下記編成の3WGで構成した。

第1WG 日本エナジーコンポーネンツ、北日本電線、谷川電機製作所、
古河電工パワーシステムズ

第2WG 大電、河村電器産業、住電機器システム、西日本電線

第3WG スリーエム ジャパン イノベーション、タツタ電線、日本ガイシ、
SWCC

3-2 委員会開催日及び場所

(1) 技術・環境委員会

第203回	令和 5年	5月	25日	中央電気倶楽部およびWEB会議
第204回	令和 5年	7月	20日	JCAA事務所およびWEB会議
第205回	令和 5年	9月	28日	ホテルサンバレー伊豆 悠々館およびWEB会議
第206回	令和 5年	11月	28日	JCAA事務所およびWEB会議
第207回	令和 6年	1月	26日	JCAA事務所およびWEB会議
第208回	令和 6年	3月	12日	JCAA事務所およびWEB会議

(2) ワーキンググループ

第1WG 6回実施

第2WG 6回実施

第3WG 6回実施

3-3 委員会出席者 計 69名

3-4 審議資料 計134件

3-5 事業内容及び主な活動内容

(1) 電力ケーブル接続用品及び関連材料に関する環境問題の検討

- ①日本電線工業会からの情報により、現在欧州にてPFAS（有機フッ素化合物）の規制化が進められていることを受け、JCAAの製品についてフッ素樹脂の使用有無を各社に確認していただき、問題無いことを確認した。

(2) 電力ケーブル接続技術に関する安全確保

- ①電力ケーブル接続用品の事故防止のための保守管理の提案
外部からの問い合わせに対する回答対応（8件）を実施した。
- ②ケーブルシースシュリンクバック対策に関する評価方法の検討と検証
ケーブルシースシュリンクバック対策の検査規格（案）を作成（会報No. 106に掲載）

(3) 電力ケーブル接続技術に関する標準の制定作業

①規格・標準類の見直し及び改定（46件）

以下の規格について見直しを行い、改定が必要な規格については改定版を発行した。

製品規格：C3105、C4102、C4104、C4201、C5101、C5102、C5103、C5104、C5105
C5201、C5202（11件）

単品規格：D001、D004、D005、D006、D007、D008、D009、D010、D013、D014、
D023、D025、D030、D032、D034（15件）

作業説明書：F3101、F3103、F3104、F3105、F3201、F4102-3、F4103-3、F4201S-2
F4201S-3、F4201S-4（10件）

設計経緯：G001、G002、G004、G005、G006、G009、G014、G015、G016、G031（10件）

②アルミ端子・アルミスリーブ規格化の検討

N数を増やした試験実施の結果、問題無いことを確認した。今後、単品規格(D規格)および設計経緯(G規格)を整備し、製品規格（C規格）へ展開することとする。

(4) 電力ケーブル接続技術に関する内・外関係機関等との交流推進事業

(一社) 日本電気協会「令和5年度 低コスト手法普及拡大に向けた電線地中化工法の調査 電線路地上設置工法の実現可能性等調査委員会」に作業会委員として参加した。

(5) 電力ケーブル接続技術に関する普及啓発活動

①会報へのテクニカルレビューの掲載

No. 105 『6600V 架橋ポリエチレン絶縁電力ケーブル用過電流ロック形高圧交流ガス開閉器(地中線用)終端接続部規格』JCAA S001-2022改定の紹介

No. 106 『シースシュリンクバック対策機材の評価方法について』